

トピックス

核融合エネルギーフォーラム活動報告（要旨）

ITER・BA 技術推進委員会の取り組み

ITER・BA 技術推進委員会委員長(九州大学特任教授) 吉田直亮



ITER・BA 技術推進委員会の主な活動としまして、一つ目は、ITER 科学技術諮問委員会（STAC）という ITER の設計などを審議・勧告するハイレベルの委員会への日本からの参画に伴う補助です。二つ目は、日本独自の視点（平成 17 年 11 月原子力委員会決定「今後の核融合研究開発の推進方策」）も加味して ITER ベースライン文書を科学技術面から評価検討することですが、今年度は専門家の意見を集約して取り纏めた「論点整理」を中間報告書として承認（1 月 8 日、第 19 回委員会）しております。さらに三つ目に、BA 活動に係わる委託研究や共同研究についての連携協力や成果共有などの促進があります。これらの公募に先立って、学術研究基盤や産業技術基盤との連携や役割分担などの有機的な連結などを審議することも大きな仕事で、BA 活動の国内での効果的推進に寄与していきたいと考えております。昨年度より始めたばかりですので結果が出るのは少し先になりますが、重要視しております。

文部科学省からの依頼にもとづく ITER・BA 技術推進委員会報告書としては今回で 5 件目ということになりますが、平成 22 年 1 月に前述の「ITER ベースライン文書の評価に関する論点整理」を纏めました。本件については、「日本から STAC への参画について補助しつつ、ITER 設計・仕様について我が国としての評価を実施」してほしい旨の依頼が文部科学省からありまして（2007 年 10 月 18 日）、ITER 設計評価検討ワーキンググループを設置し、迅速かつ機動的に対応してきた活動の成果の一部で、最終化はこれからとなります。このワーキンググループは会合を今までに 17 回開催して論点整理案を取り纏め、1 月の ITER・BA 技術推進委員会で中間的な位置づけの報告書として受理、承認されました。ITER の工学設計活動（EDA）時の設計最終報告書は 2001 年に出されておりますが、実際に製作する前に見直されてきております。その理由は、カダラッシュにサイトが決まったことや物理研究が進展したことなどによりますが、いくつかの項目で修正した方がいいだろうということになりました。これらの主な修正点に関して専門家の立場から検討するとともに、国内の幅広い意見も集約して整理しました。まだ最終的な形にはなっていないので、ベースラインの最終案が ITER 機構から出され次第、評価報告書として最終化し文部科学省に提出する予定です。